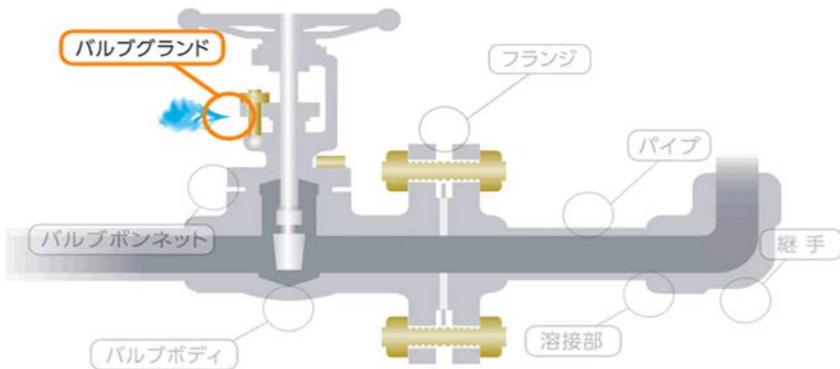


バルブグランドからの漏洩を プラント稼働した状態でとめるには？



長年の使用するとグランドパッキンの経年劣化により、バルブグランドからリークが発生します。

そんな時は増し締めすることによって一時的に漏れを止めることができますが、増し締めにも限度があります。

無理な増し締めを行うとボルトを折損したり、ステムに傷がついたりします。

バルブグランド工法なら・・・

- ★ 設備を稼働したまま、即日補修が完了できます。
- ★ 漏れを止めた後もバルブの操作が可能です。
- ★ 設備停止にともなう、経済的ロスや納期遅れを回避できます。
- ★ ハンドル操作や増し締めができます。

施工方法

Step 1)

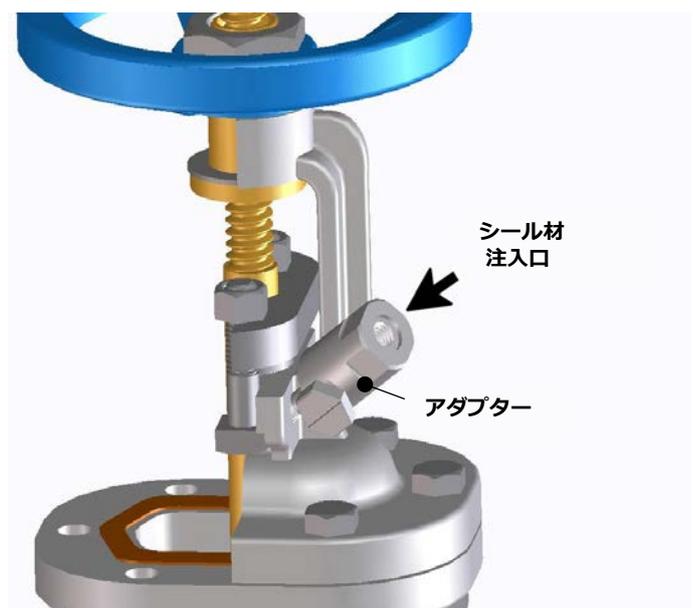
バルブ本体にシール材注入用の貫通穴を加工し、アダプターを取り付けます。

Step 2)

スタフィンボックスにシール材を注入しながらグランド押さえボルトを緩めます。

Step 3)

シール材の注入後、漏れが止まったことを確認して注入器具を取外し、閉止プラグを取付けて補修完了です。



お問い合わせ先

富士ファーマナイト株式会社 www.furmanite.co.jp

Tel : 044-948-8833 Fax : 044-777-5810

E-mail: technical_support@furmanite.co.jp